

活動報告

団体名	Union International Association for Volunteer
活動名	平成30年7月豪雨災害のための中長期復旧支援事業
活動期間	2018年8月～2019年3月
活動の成果	<p>災害発生直後は、報道・ボラ意識も高く、作業ボラも多いが、日が経つにつれて参加ボラは減少していく。また、作業そのものも非効率となってしまう。</p> <p>当会は、貴団体の「機材整備」の支援。これまでの24年の災害現場での経験をいかし、一般ボランティアのためのボランティア（作業の下準備特殊作業ボラとして活動）作業効率の向上。通常10人で数日の仕事を数名で1日で完了していく。</p> <p>また、より良い機材利用によって、スタッフの安全を確保。作業効率も格段にUP。より美しく。依頼者本位の希望通りの作業を行った。</p> <p>依頼者は、常に遠慮しながら作業を依頼している。ただ、現場で話を聞けば、「これもできるかな～」、「できればうれしいな～」。こうした話をこまめに確認し、被災依頼者の要望に十分に答えることができた。</p> <p>また、作業効率が高いということは、常に依頼者は「ボラへの気遣い」を最小限に減らすことができる。「ジュースやお菓子の用意」も作業日数が続くと「ありがたい＝費用がかさむ」結果となってしまう。もちろん、当会は全て準備し参加し、依頼内容を1日で完了することで「被災依頼者への費用負担の軽減」も考えながら作業をおこなった。</p> <p>また、先に述べたように、24年の災害現場の経験において、業者との仲介しながら、被災依頼者の要望を聞き取り作業をすすめ、依頼者へのアドバイス。リフォームの基本的な相談にのることができた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>多くの支援のおかげで、作業の安全の確保。作業の効率UP。現場において依頼者のどのような依頼にも対応できる準備。災害発生から9か月をむかえるなかで、ボランティア参加者の現象。依頼内容も専門化していくなかで、24年間の災害救援の経験が特殊作業ボランティアとして現場において力を発揮することができました。</p> <p>私たちの活動は、一般的ボランティアの作業の下準備を行ったり、多少危険な作業もありますが、安全確保のための機材整備・準備・活動にご理解とご支援をいただき被災地の復興に寄与することができました。</p> <p>心よりお礼申し上げます。</p>

(活動のようす)

